

## ( 中期財政見通しから見る ) 添田町財政の 課題 と 対策

(これまで) 人口減・高齢化は進行しているものの**財政は健全な状態**です

- 貯金(財政調整基金) … 平成24年度 33億円 → 令和4年度 40億円 (10年間で+7億円)
- 借金(地方債) … 平成24年度 80億円 → 令和4年度 68億円 (10年間で△12億円)

(現在・将来の課題) 添田町の財政は改善してきましたが、将来に向けて財政上の**課題**があります

( 現在の課題 )

- 町税などの自主財源が少ない。固定収入(税収+国からの交付税)だけでは、毎年必要となる「基礎的な町の運営費」しか賄えない。  
→ 家計に例えると「自分で稼ぐ給料だけでは生活費が足りていない。病気など将来の不安に対応するお金が工面できない。」状況

( 将来の課題 )

- 人口減・高齢化 → **税収**や国からの**交付税**が**減少**
- 公共施設の老朽化 → 維持管理費の増加
- 大型事業の財源として**借金が増加**見込み → 後年度の**借金返済額**が**増加** → 他の支出予算を圧迫  
(特に学校施設整備事業の影響により、令和5年度から令和6年度の間に借金の現在高は増加)

(これから) 「課題」に対する取り組みを行わない場合、人口減・高齢化の進行とあわせて財政状況は**厳しくなる見込み**です

- 将来の借金 → 3年後には現在から約75%増加する見込み(学校施設整備など計画的な大型事業の影響)
- 将来の貯金 → 借金の増加により取り崩しが進み、残高が減少する見込み(人口減による収入減や公債費などの支出増の影響)

添田町が「**住み続けたいまち**」であるために健全な財政状況の維持に取り組みます

- (歳入面)
- 施設の受益者負担を見直し、ふるさと納税の強化など町の自主的な収入を増やします
  - 借金の返済額より借入額を少なくし、将来世代への負担を減らします (大きな事業を行う際は借金以外の資金調達を目指します)
- (歳出面)
- 住民ニーズに対応した新たな事業を行う時は既存の事業を見直し、優先的順位による取捨選択を行います
  - 老朽化した施設の統廃合を検討するなど維持管理費を抑制することで、将来負担の軽減を目指します
  - 町財政に大きな影響を与える事業については、事業効果、必要性など特に厳格な審査を行います